



上菅田中学校だより

第5号 令和元年 8月30日発行

発行責任者 校長 関 恭雄

上菅田中学校 学校教育目標

- ◆学びを深め、実践力を養う
- ◆互いを認め、自分を伸ばす
- ◆豊かな心と健康な体をつくる
- ◆地域の一員、国際社会の一員であることを自覚し、行動する

「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」保土ヶ谷区審査会（7月2日開催）より

感じることの大切さ

上菅田中学校3年 つちかま めく 土釜 芽久

みなさんは成功する人とそうでない人の違いは何だと思えますか。私は失敗を学び、それを生かすことだと思っています。これは、世界の平和に繋がるとても大切なことではないでしょうか。

私が6歳の頃、2011年3月11日に福島県で東日本大震災、そして福島第一原発事故を経験しました。あの時の様子は、今でも鮮明に覚えています。大津波に飲み込まれ、姿を変えていく街。母の姿を見つけて安堵した気持ち。外出時には必ずマスクを着けなくてはならなくなったこと。全て忘れられない記憶です。この大災害は、日本中の人々の心に大きな傷を残し、記憶から消えることのないものだ、私は思っていました。しかし、その考えは覆されたのです。

小学校4年生の時に私は横浜に引っ越しました。その小学校では、毎年3月11日に全校生徒で黙祷を捧げています。その時に、ある1人の友達が私に「今日って何の日だっけ」と聞きました。大地震や原発事故を経験した私にとって信じられない一言で、悲しくなりました。経験したかしていないかでこんなにも感じ方に差があるのかと、胸が苦しくなりました。そして、経験しないと恐ろしい出来事の悲惨さは分からないのだと、そう考えるようになりました。

中学3年生となった私は、修学旅行で広島を訪れ、被爆者体験講話を聞き、原爆ドーム、資料館を見学しました。行く前は社会の授業や事前学習で原爆について十分理解しているつもりでした。しかし、実際に広島を訪れたことで初めて本当の原爆の正体を知りました。灰となった家族を見つけ生きる気力を失くした人の話、青や紫に変色した死体の絵、今もあの悲惨な情景が脳に焼きついています。以前までの私は「経験しないと災害や戦争の悲惨さは理解できない」と思っていました。しかし今は、「人は実際に経験していなくても、感じ方によって経験したように事実を理解できる」、そう思うようになりました。

平和な世界をつくるためにはどうしたらよいのでしょうか。私達が見ているテレビや新聞のニュースは事実のほんの一部でしかありません。平和のために変えるべき世界の問題を、私達はあまり理解していないと思います。まずは、様々なことを知らないと始まりません。そして、知った上で失敗を学び、悲惨さを感じとる必要があるのではないのでしょうか。私は今までの2つの実体験で核の恐ろしさを感じることができました。1つ目は講話です。この時、被爆された方からお話を聞けるのは私達の世代が最後だと知り、原爆の恐ろしさを多くの人に伝えていくべきだと感じました。2つ目は原発事故です。私は福島で原発の恐ろしさを目の当たりにしました。今もこれによって苦しんでいる人が何万人もいます。世界から絶対に原発や核兵器を失くすべきです。私はこれからも様々なことを知り、強く感じたことを多くの人に伝えていきたいです。そして、私だけでなく、1人1人が世界の問題について知り、何が課題なのか感じとることが世界の平和に繋がると、そう私は信じています。

英語弁論大会 本校代表生徒が素晴らしい英語のスピーチを披露しました。

3年 ^{くにともりん か} 國友琳花さん 横浜市立中学校生徒英語弁論大会（予選 7/29, 本選 8/25 西公会堂）

3年 ^{ふくやす かれん} 福安加恋さん 神奈川県中学校英語弁論大会（8/1 西公会堂）

陸上競技部 棒高跳 関東大会出場

3年 ^{おおのゆたか} 大野豊選手 3年 ^{きむらはやと} 木村隼人選手

の2名が県大会で2位と3位に入賞し、8月8日・9日に山梨県で開催された関東中学校陸上競技大会への出場を果たしました。

※自治会の皆様には募金にご協力いただきました。ありがとうございました。

男子バスケットボール部

県大会出場 ベスト8

男子バスケットボール部が市大会で5位に入賞し県大会に出場しました。県大会でも1回戦、2回戦を突破、3回戦で県大会優勝校となった大庭中^{おおば}に惜敗^{せきはい}しましたが、県ベスト8入りを果たしました。

総合防災訓練

夏休み明けの8月27日大地震発生を想定した総合防災訓練を実施しました。今回の訓練では、^{まつのまさたか}松野正敬上菅田連合自治会長が、校庭に避難した生徒へ向けて中学生の地域防災への参画に関するお話をしてくださいました。自助（自分の命は自分で守る）と共助（^{きょうじょ}地域で力を合わせる）の大切さや^{ちいきぼうさいきてん}地域防災拠点の役割についてのお話の後、現在、上菅田小学校に置かれている上菅田小学校地域防災拠点が、上菅田笹の丘小学校の新設工事期間中（令和2年4月～令和5年3月）上菅田中学校に移設されることと、高齢化が進む地域の防災には中学生の知恵と行動力が必要とされているという中学生の力に期待するメッセージが伝えられました。



東日本大震災の記憶 現在18歳以上の成人年齢の方々には2011年3月11日に発生した東日本大震災の記憶は被災地から遠く離れていた方も含めて決して忘れることのできない記憶として刻み込まれていることと思います。しかし、現在の、そしてこれからの小中学生（特に被災地から遠く離れた地域の小中学生）にとって東日本大震災は「知っているけど実感の伴わない過去の災害」になりつつあります。あの時起きたこととその教訓^{けいしん}を継承していくことと復興道半ばの被災地に思いを寄せ続けることが今後とても重要になります。※東日本大震災が起きた時、現在の中学生は小学校入学前でした⇒中学3年生=6歳、中学2年生=5歳、中学1年生=4歳

夏の祭礼・フェスティバル ☀️夏は中学生も地域の一員であることを再確認できる季節です☀️

夏休み中、各自治会で恒例の夏祭りや盆踊り、フェスティバルが開催され、各会場で子どもたちのたくさんの笑顔に出会うことができました。運営する自治会の皆様の「子どもたちに思い出を」「住民同士^{しんぼく}の連帯と親睦を」という温かい思いが伝わってきます。中学生も出店の運営やYOSAKOIソーランの披露^{ひろう}で地域の一員として貢献する機会^{こうけん}をいただいています。

